

令和 3 年度

横浜市立高等学校
及び
併設型中学校

自己評価書

横浜市立横浜商業高等学校別科

<学校情報>

1 課程・学科 全日制 理容科・美容科

2 学校長 小間物 晃弘 (令和4年4月1日現在 在職2年目)

3 学校教育目標

- ・これからの理容・美容業界を担う職業人として、深い認識を持った生徒を育成します。
- ・理容師・美容師として健全な社会生活を営むために必要な態度と能力を持つ生徒を育成します。
- ・優れた技術は、科学的な知識の習得や創意工夫の上に得られるという自覚をもって努力する生徒を育成します。

4 教育方針

- ・創立73周年の伝統とその特色を活かした平成30年度からの新教科課程を編成・運営します。
- ・知識に裏付けられた技術の獲得と職業観を育成します。また、平成30年度新設のダブルライセンスクラスでは理容美容に係る総合的技術力・知識、職業観をさらに高いレベルで獲得する教育を行います。
- ・家庭や地域と連携し、社会の要請や信頼に応える学校づくりを進めます。
- ・理容師・美容師の国家試験全員合格を目指して実習や教科等の学習指導の充実・工夫に努めます。
- ・生徒からの創意工夫によって学習する習慣や協力的な話合いができるよう自主的活動を支援します。
- ・理容師・美容師という職業上特に服装・態度・言葉遣いに配慮し、また衛生管理、安全管理・環境美化への細かな配慮ができる生徒の育成に努めます。
- ・地域社会に受け入れられる学校を目指し、連携、協力を通して、生徒の豊かな人間性を養います。

5 教職員数 (令和3年12月1日現在)

学校長	<u>1</u>	校長代理	<u>1</u>	副校長	<u>1</u>	事務長	<u>0</u>
教諭	<u>0</u>	(男 <u> </u> 、女 <u> </u>)				養護教諭	<u>1</u>
実習助手	<u>13</u>		事務職員	<u>1</u>		技能職員	<u>2</u>
A E T	<u>0</u>		非常勤講師	<u>22</u>		管理員	<u>0</u>

6 生徒在籍数（令和3年12月1日現在）

年次（学年）	学級数	男子	女子	合計
1	2	19	46	65
2	2	26	50	76
3	1	3	7	10
4				
合計	5	48	103	151

7 回収率

		依頼数	回答数	回収率
教職員		14	14	100 %
生徒	1年	64	64	100 %
	2年	73	73	100 %
	3年	10	10	100 %
	4年			%
	合計	147	147	100 %
保護者		148	117	79.0%

8 自己評価実施日

教職員	令和3年11月8日～令和3年11月12日
生徒	令和3年12月3日～令和3年12月3日
保護者	令和3年12月24日～令和4年1月14日
地域	新型コロナウイルス感染拡大に伴い実施を見合わせました。

9 集計・分析期間

令和3年11月29日～令和4年3月31日

10 自己評価書の公表方法・時期

- ・自己評価書については、6月以降、ホームページ上での公開とする。
- ・保護者及び地域の方々や学校関係者に対しては、次の機会等を通じて主な取組及び成果等を周知する。
 - 1 敬老祝賀会
 - 2 文化祭当日
 - 3 一日体験入学当日

<自己評価>

1 第3期横浜市教育振興基本計画の推進状況

□魅力ある高校教育の推進状況

(関連アンケート番号：教職員1、生徒、保護者)

取組	<ul style="list-style-type: none">・生徒に理容師・美容師としての確かな技術力や知識等を修得させるため、厚生労働省令による卒業に必要な履修時間数 2010 時間を大きく上回る 2190 時間を設定し、国家資格取得を目標に取り組んでいる。・理容修得者課程における教育内容の更なる充実とダブルライセンスの取得に向け、効果的で効率的な授業計画の立案と授業運営を行っている。・入学希望者の増加に繋がることも目的の一つとして、理容修得者課程の特色や魅力を適切に発信している。・成績管理システムの導入により、より一層的確な成績処理が実現できるように取り組んでいる。・社会人として必要な能力を身に付けさせると共に、正しい職業観や勤労観を育成するため、さまざまな機会を通じて教職員が一丸となり、継続した指導を実践している。
成果	<ul style="list-style-type: none">・本校の理容師・美容師の国家試験は、例年ほぼ 100%の合格率を維持している。この合格率の高さも、横浜商業高校別科の教育成果であると共に、良き伝統と捉え、今後も更なる指導を行っていく。・令和4年度の理容修得者課程への進級希望者も確実に増加しており、その特色や魅力についても生徒や保護者の理解が深化していると考えている。今後も教育内容の更なる充実と、確かなダブルライセンスの取得をより一層実現させる。・令和4年度入学者選抜への志願者数は、理容科 37 名、美容科 51 名と昨年よりは増加した。他の理・美容師養成施設校の入学試験が早い時期に行なわれるため、本校にとって不利な条件があるにもかかわらず、安定した志願者数を確保している。・成績管理システムの導入に伴い、正確で迅速な成績処理や個人情報管理が実現しつつある。・進路指導の一環として、後援会からの協力と連携のもと、進路相談会を実施することにより、より一層進路指導を充実させた。

課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・入学希望者が増加傾向で安定しているとはいえ、理容科においては募集人数に満たない状況である。 ・他の理容・美容学校が、年度の早い時期に合格者を決定している状況を鑑みると、本校独自の入学者選抜について思考する必要がある。 ・生徒の確実なダブルライセンスの取得や、理・美容師の国家試験合格のため、不断に教育内容の工夫改善に取り組む必要がある。 ・評価が定着してきたダブルライセンスクラスについては、進学希望者が増加している現状を鑑み、定員の拡充に向けた取り組みを行ってゆく必要がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・公立高等学校の入学者選抜制度から外れることが募集定員を増加させる最善の方策と考える。少なくとも他の養成施設校と同一時期に入学者選抜試験を実施しなければ根本の解決にはならないとの判断から、より一層横浜市教育委員会事務局への働きかけを通じて、神奈川県教育委員会に理解してもらえる努力を継続する。

2 教育活動の状況

□教科指導の状況

(関連アンケート番号：教職員 9, 10、生徒 1, 3、保護者 1, 2, 4, 5)

取 組	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルライセンスクラスは、初の実務実習を行い、将来の目標を明確にさせた。また働くことの厳しさや喜びを感じ取らせ、望ましい勤労観・職業観を養った。 ・実習では生徒の実態に応じて、指導内容や指導方法を工夫して分かりやすい授業実践に取り組んだ。 ・学校教育目標・重点目標の実現に向け、適切な計画を作成した。 ・観点別評価指導を明確にした年間評価計画を立て、それに基づき適切な方法で評価・評定を行った。 ・安心して学習できるようにするため、スクールカウンセラーの活動時間の増加を希望した。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・精神的に不安定になる生徒が増えたが、スクールカウンセラーの対応も3年目を迎え、別科の実情の理解が進み、より良い成果が得られたといえる。面談をしてもらう機会が増加し、日頃話せない相談事や心の悩みを理解してもらえたことにより、学習面でもより安心して取り組むことができるようになった。 ・ダブルライセンスクラスも4年目を迎え、学習計画にさらなる工夫がなされ、また指導内容の向上により、着実に成果に結びついている。

課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・実習よりも学科に関して、生徒の学習意欲が低く、試験での結果が思わしくない。理解し出来ることの喜びを感じさせる授業展開が必要だと考える。また学習意欲や参加態度の芳しくない生徒への対応がまだ不十分であると考え。 ・刃物を扱う授業もあり、安心して授業を進めるためにも、スクールカウンセラーの常時配置を希望する。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒全体の底上げはもちろんのこと、個々の生徒に対する指導を効果的にできるようにする。 ・スクールカウンセラーの配置を継続して要望していく。

□生徒指導の状況

(関連アンケート番号：教職員 9、生徒 2, 4, 5、保護者 3, 5, 7)

取 組	<ul style="list-style-type: none"> ・アルバイト申請書を用い、学校生活に支障をきたすことないように指導した ・全生徒へ携帯電話の預かり指導を行い、授業中の使用や、携帯電話によるトラブル等の防止を図った ・複数の職員が毎朝登校時に昇降口に立ち、生徒の様子を把握するとともに、身だしなみや時間など生徒への声掛けを行った ・学習面や生活面で気になる生徒には個人面談を行うなど、きめ細かな指導を行った
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話の預かりが定着してきて、授業に集中できる環境ができた。休み時間に会話やスポーツを楽しむ生徒が増えた ・問題行動に対して、生徒指導部及び学年との連携を図り、情報の共有化と迅速な対応を行うことができた ・さまざまな課題を把握し生徒理解を深めることができた
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活のあらゆる場面において、生徒の些細な変化も見逃さないように努めることで、問題行動を未然に防いでいく必要がある ・一人ひとりの生徒が安心して学ぶことができるように、より一層危機管理の徹底とより良い学習環境の構築に取り組む必要がある ・学習面、生活面等で問題を抱える生徒が複数名におよび、担任への負担が大きい。職員で負担を分散できるような体制が必要である ・基本的な生活習慣の確立（遅刻をしない、身だしなみ、食事睡眠休養など）ができていない生徒への指導を行う。

改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の教育活動における個々の生徒の動向等に注意を払い、職員間の情報共有を的確に行い、複数での指導体制で個々の生徒に寄り添った指導をより一層充実させる。
-----	---

3 学校経営の状況

□組織運営の状況

(関連アンケート番号：教職員 13-27、生徒 6-13、保護者 6-10)

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、学校生活での衛生管理に力を入れた。 ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う休業期間中は、特にメール配信システムを活用し、保護者や生徒への連絡を密にした。 ・ Google classroom を活用し、生徒の学習支援を適切に行った。 ・ 学校紹介動画を You Tube で放映し学校の広報活動に努めた。 ・ 生徒募集に関しては学校情報検索サイトを利用した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習用具や手指の消毒、換気を徹底し、新型コロナウイルス感染防止対策を万全にして、生徒の安全や健康面に留意し、安心して授業ができる環境を整えた。 ・ 通信システムや、Google classroom を活用することにより、各科や学年、クラス毎の連絡や課題伝達が速やかに行われるようになり、学習指導に役立てることができた。 ・ 簡単にスマートフォン等で確認ができるような動画での学校紹介を行うことにより、理・美容師、そしてダブルライセンスに対する興味を喚起し、本校の広報活動に役立てた。 ・ 学校情報検索サイトからは多くの資料請求や学校説明会、学校見学の申込を受けた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き入学希望者の増加を目指し、魅力のある学校づくりをし、生徒・保護者が安心して学校生活を過ごすことができる環境を整えていく必要がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 魅力のある学校づくりを組織全体で取り組んでいき、発信していくことによりさらなる生徒募集につなげていく。

□学校経理の状況

(関連アンケート番号：教職員 19、生徒 10)

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・中期学校経営方針に記載した通り、予算等配当予算内に執行について、年度当初に予算委員会を設けて全職員の理解の下で計画した校内整備を実施した。 ・放送設備の改修 ・トイレの手洗い場の自動水栓化 ・掲示板ボードの新調 ・自動検温機や各教室やすべての部屋の出入り口に消毒薬のオートディスペンサーの配置、手洗い場のハンドソープのオートディスペンサーの配置等 ・実習室の改修工事
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の健康や安全を守るため感染症対策は万全を期すことができた。 ・放送設備に不具合があったため、校内放送やマイクを使用できない状況が改善された。 ・実習室の改修工事により、授業が非常にやりやすい環境となった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・年々校内設備は不具合がでてくるので、より綿密な計画をたて、授業や生徒の安全対策に遅れが出ないように予算を執行していく。 ・理容修得者課程の施設・設備の整備が一向に進んでないので、今後も教育委員会各課と連携して進めていく。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・校内設備の更新、理容修得者課程の施設・設備の整備の必要性を働きかけていく。

4 いじめへの対応に関する項目

□いじめへの対応

(関連アンケート番号：教職員 8, 9, 28、生徒 2, 4, 5、保護者 3, 5)

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止と早期発見の観点から、全校生徒に対してアンケート調査を実施し、得られた結果を全職員で共有することにより、日々の指導に活用した。 ・毎朝の登校指導を通じて生徒の様子を観察することで、些細な変化を見逃さず、早期の問題発見や適切な指導に繋げている。 ・携帯電話を預かり、日ごろから携帯電話に頼らないコミュニケーションができるように指導している。 ・SNSの使用に関するトラブルや課題について、専門の外部講師を呼び講演会を開催した。 ・スクールカウンセラーが配置されたことで、課題や問題を抱える生徒の窓口が広がった。
----	--

<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめに関するアンケート調査では生徒の実態を職員で共有することができた。 ・ SNS の使用に関するトラブルや課題についての講演会を開催することにより、トラブルの未然防止と適切な使用についての理解を深化させた。 ・ スクールカウンセラーが配置されたことにより、課題や問題を抱えている生徒だけではなく、保護者の相談も専門的な立場からアドバイスできている。
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 携帯電話を預けない生徒がいる。ダミー提出や授業中に音が鳴るなど預けている生徒から不満の声が上がっている。職員全体で預けていない生徒への声かけや指導を行う必要がある。 ・ 学校外での携帯電話や SNS の使い方に問題が出ている。 ・ アンケートの結果から表面化していないものの、一定の割合の生徒が何かしらの問題や心配事を抱えているようである。引き続き、職員全体で共通の認識を持ち、生徒一人ひとりに対し観察や声かけ等を行う必要がある。また、職員の研修等も継続して行うことが必要である。
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ スクールカウンセラーを配置されたことにより、適切に情報共有を図り、生徒個々の悩みや問題を早期に発見し、その解決に向け、より一層丁寧に取り組んでいく。